



国連WFPニュース



国連WFPのエボラ出血熱対策

今年、世界では前例のないほど多くの緊急事態が発生し、国連 WFP が最高レベルの緊急支援を同時並行で 5 つも展開するという異例の状況が起きています。最高レベルの緊急支援活動が行われているのは、シリア及び周辺国、中央アフリカ共和国、南スーダン、イラク、西アフリカのエボラ出血熱流行国の 5 カ所。これらを含め、国連 WFP が 2014 年に全世界で行う活動に必要な資金は、例年の総支出のおよそ 2 倍の 84 億米ドルと、記録的な額に達しています。今年の上半期には、去年の同時期と比べて実に 50 倍以上もの支援物資を空輸しました。

特にエボラ熱の感染拡大は世界の脅威となっています。国連 WFP は、3 月末にギニアでエボラ熱の流行が正式に宣言されてから 8 日後に、現地で食糧支援を開始。以来、流行国であるギニア、シエラレオネ、リベリアの 3 カ国で、現地政府

と世界保健機関 (WHO) の要請を受けけ、支援活動を拡大してきました。

来年 2 月までに、医療施設に隔離されている患者やその家族、回復した元患者、死亡した患者の遺族、流行地域の住民など、3 カ国で 130 万人に食糧を届ける計画です。10 月末までに、そのうち 110 万人を支援しました。患者には、体力を維持できるよう栄養豊富な温かい食事を配布し、その他の場所では、米、豆、植物油、塩などの食糧を配布しています。

エボラ熱発生国では食糧の生産や流通が滞り、市場が混乱しています。さらに多くの家庭が稼ぎ手をこの病気で失い、食糧難の懸念が高まっています。食糧支援は、エボラ熱という公衆衛生上の危機がさらに食糧危機に発展してしまうことを防ぐものです。

国連 WFP は食糧支援以外に、物資輸送活動も展開しています。エボラ熱発生国

への航空便の運航が相次いで停止される中、8 月、国連人道支援航空サービスという旅客・物資の航空輸送サービス（いわゆる国連機）の運航を開始。10 月末までにおよそ 1,400 人の支援関係者と 44 団体の支援物資を現地に運びました。さらに、国連 WFP が運営している国連人道支援物資備蓄庫から、手袋やマスクなどの防護用品や医療用具など 680 トンを空輸しました。現地で支援物資の物流拠点も建設中です。

また、医療活動支援の一環として、リベリアとギニアで、エボラ熱治療施設を建設中です。シエラレオネでは、新しい救急車などの調達を支援しています。

これらの活動を来年 2 月まで続けるにはおよそ 1 億 8 千万米ドルが必要ですが、10 月末現在、その半分以下しか集まっています。皆様の温かいご支援をよろしくお願ひいたします。

ご寄付は
こちらから

お電話

0120-496-819

受付時間 9:00~18:00(年末年始を除く毎日)

ウェブサイト

www.wfp.org/jp

クレジットカードでのご寄付になります。その他の方法はウェブサイトをご覧いただか、上記フリーダイヤルにお問い合わせください。

*国連 WFP へのご寄付は、寄付金控除など税制上の優遇措置を受けられます。

どんなに困難でも、食糧を届ける～国連WFP元アジア局長・忍足謙朗～

NHKの番組『プロフェッショナル 仕事の流儀』に登場した国連WFP元アジア地域局長の忍足謙朗。世界各地の紛争地などで食糧支援に携わり、9月末で国連WFPを退職しました。忍足に、四半世紀にわたる支援活動について、話を聞きました。

ー 支援活動に従事する中で、最も心に残った出来事はなんですか？

1999年、コソボ紛争の時です。紛争がおさまり始めたとき、私は小麦を積んだトラックの車列と共に、国連WFPの支援チームの第一陣としてコソボに入りました。

まだ建物が燃えているような状況で、銃声も聞こえ、地雷の危険もあったので、最初の夜は、トラックの小麦粉の袋の上で寝ました。

次の日、山中の森に入り、そこに逃げ込んでいた人たちに対して、コソボでの初めての食糧配給を行った時のことです。私が配給の指示を出していると、6歳ぐらいの女の子が近寄ってきて、「食べ物、ありがとう」と言いながら、花束をプレゼントしてくれたのです。それは、その子が辺りの野の花を摘んでつくってくれた小さな花束でした。思いがけないプレゼントが強く心に残っています。

ー 一番大変だった経験はなんですか？

危険な目に遭うことはそれなりにありました。銃を突きつけられたことも、家に手榴弾を投げ込まれたこともあります。戦闘中には、狙撃手が撃ってくるかもしれない道を、全速力で突っ切りました。でも、私はこの仕事が大好きで、あまり大変だとは思いませんでした。

一番大変だったのは、コソボ紛争の際、国連WFPのコソボ・バルカン半島諸国特別代表として、大きな緊急支援活動を初めて立ち上げた時のことです。銃声の聞こえる中、全く何もないところから2週間ほどで500人のスタッフを雇い、7つの現地事務所を立ち上げたのは、大きな挑戦でした。この時は、非常事態だったため、国連WFPが運航していた国連機に毎日のように万単位でドル札を積んで活動資金を運ぶなど、多少、手荒なこともしました。通常では考えられないことです。

しかし、一番大切なのは、早く確実に食糧を届けるということです。そのためには、ルールを破ってでも、本質的に正しいことであれば大胆に決断するということを学び、鍛えられました。



スーダン勤務時代に学校を訪れた忍足。

©WFP

ホームページに、「支援の際に心がけてきたこと」「日本の皆さんへのメッセージ」など、インタビューの続きを掲載しています。

ぜひご覧ください。

記事はこちらから⇒ <http://ja.wfp.org/news/stories/14-12>

国連WFPでは皆様からの継続した支援を必要としています！

カズン国連WFP事務局長来日、女性の活躍促進を訴える

9月、国連WFP事務局長のアーサリン・カズンは、東京で開催される「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」に出席するため、日本政府の招待を受けて来日しました。2012年の就任以来、カズンの来日は3度目です。

「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」は、日本政府や日本経済団体連合会などが主催。政界やビジネス界で活躍する世界各国のリーダーや有識者が一堂に会し、女性に関する課題や女性の活躍促進について議論しました。

カズンは25年以上にわたり、企業や政府、非営利団体を率いて、飢餓や食糧問題の解決に従事し、今年、アメリカのフォーブス誌の「世界で最もパワフルな女性100人」にも選ばれています。同シンポジウムでは、飢餓のない世界をつくる上で女性が果たす重要な役割について熱く語りました。

また、カズンは、安倍晋三首相を表敬訪問し、岸田文雄外務大臣らと会談。日本からの多大な支援に感謝すると同時に、エボラ出血熱の発生国を含む中東やアフリカで人道支援の需要がまだかつてないほど高まっていることに触れ、継続的な支援を要請しました。

日本は国連WFPの最大の支援国のひとつです。2013年には日本政府から2億3,840万米ドルが寄せられ、日本は世界第5位の支援国として国連WFPの活動を支えました。

日本の政府や民間部門からの国連WFPに対する支援についてのパンフレットを制作しました。日本からの支援で可能になった活動の内容やその成果などについてまとめています。こちら（http://ja.wfp.org/content/japan_2014）からダウンロードしていただけます。ぜひご覧ください。



岸田外務大臣（右）を表敬訪問したカズン国連WFP事務局長（左） 提供：外務省

私たちの国連WFP支援 三菱商事株式会社

三菱商事は2005年から評議員として、2013年からは「国連WFPコーポレートプログラム」の「パートナー」企業として、国連WFPを支援しています。

Q1. 国連WFPを支援している理由を教えてください。

弊社の社会貢献活動は「地球環境」「福祉」「教育」「文化・芸術」「国際交流」の5分野を中心に支援しており、その一環として国連WFPを支援しています。また、私たちは寄付だけの支援ではなく、社員自らが自発的に活動に参加して汗を流し、継続して取り組むことを重視した社会貢献活動を行っています。

Q2. 具体的にどのような支援を行っていますか。

社員のボランティア活動を支援する制度があり、多くの社員が参加しています。その中で国連WFPに対して次のような取り組みをしています。

ボランティアカード

弊社主催のボランティア活動1回につき、ボランティアシールを1枚配布します。そのシールをカードに5枚貼って提出すると、弊社が一定額を支援団体に寄付する仕組みです。国連WFPへは2012年度から2013年度まで支援させていただきました。対象となるボランティア活動は昼休みに会議室で行う絵本作りから、森林保全、チャリティーランへの参加など多岐にわたり、年々参加者が増えています。

チャリティーバザー

年に2回弊社ロビーで開催し、売り上げを全額寄付するバザーです。参加団体は1回の開催あたり約20団体あり、役員も率先してボランティアとして参加し商品を販売します。国連WFPブースではレッドカップキャンペーン商品を販売し、社員への認知も高めました。

セミナー開催

国連WFPの給食を食べて育ったネパールの登山家、ニムドマ・シェルパ氏を招き、社内で一般の方を対象にセミナーを行いました。

WFPウォーク・ザ・ワールド

グループ企業からの参加も含め、第3回目から参加しています。家族で参加できる活動がなかなかないので、貴重なイベントになっています。今回も株式会社レンタルのニッケンなどのグループ企業の社員、家族と参加しました。

その他にも社内にボランティア用サイトがあり、その中で国連WFPの活動やイベントも紹介しています。



Q3. 今後国連WFPの活動へ期待することを教えてください。

活動を継続してもらうことで社員への周知を続けていくことにつながります。今まで通りの活動を続けていただき、今後は支援させていただいた結果が社員へ伝わるようなイベントが開催できればと思います。

国連WFPチャリティーオークションにスポーツヒーローが協力

5月28日から6月10日まで「国連WFPチャリティーオークション」を横浜高島屋で開催しました。2014年はソチオリンピックとW杯ブラジル大会が開催され、2020年東京オリンピックへと話題が続くスポーツイヤーであることから、国連WFP飢餓撲滅大使のサッカー選手カカを中心とする一流アスリートが多数協力。白鵬さん、三浦雄一郎さん、寺川綾さん、蝶野正洋さん、木村沙織選手、角野友基選手、横浜FC、横浜F・マリノス、埼玉西武ライオンズ、横浜DeNAベイスターズの選手の皆様から18点がオークションに寄せられました。また、知花くらら国連WFP日本大使や竹下景子国連WFP協会親善大使も出品しました。

落札の総額は884,128円となりました。落札額の全てが途上国の子どもたちに栄養と希望を届ける学校給食プログラムに役立てられ、およそ3万人の子どもたちに給食を届けることができます。オークションにご協力、ご参加くださった皆様、ありがとうございました。



写真展「竹下景子親善大使が見た国連WFPの食糧支援～母と子の絆、子どもたちの未来～」



8月13日から17日まで、東京都内・銀座三越で、写真展「竹下景子親善大使が見た国連WFPの食糧支援～母と子の絆、子どもたちの未来～」を開催しました。本写真展では、竹下景子国連WFP協会親善大使が、セネガルとフィリピンを訪問した際の写真を通して、現地の状況や母子の様子、国連WFPの支援活動を紹介しました。写真は写真家・関口照生氏の撮影によるものです。

初日には、竹下親善大使によるトークショーも開催。竹下親善大使は、「日本にいると、つい今日と同じ明日が来ると思いがちですが、世界では多くの人々が飢餓や貧困で辛い経験をしています。しかし現地では、皆が困難に負けず明るく頑張っていこうとする力強さを感じました。また国連WFPの支援が確かに届いていると実感しました。世界中の人々のために、ご協力をお願いします」と話しました。期間中は子どもから大人まで1,500名を超える方々が来場しました。

「WFPエッセイコンテスト2014」13,180通のご応募ありがとうございました！



国連WFPは今年も「WFPエッセイコンテスト」を実施し、「『いただきます』と『ごちそうさま』」をテーマに、7月1日から9月10日まで、小学4年生以上を対象に作品を募集しました。

全国から寄せられた13,180作品の中から最優秀賞にあたるWFP賞を選ばれたのは、兵庫県の野上夏美さんの作品「積まれたミカン」です。本作品では、野上さんが小学校3年生の時に給食を通じて体験した出来事がつづられており、心に響く素晴らしい作品です。

10月16日の「世界食糧デー」には国連大学で表彰式を開催し、審査を行った湯川れい子さんや三國清三さんも参加する中、受賞者の方々をお祝いすると共に、皆で飢餓問題解決への思いを新たにしました。専用ウェブサイト(www.redcup.jp/essay/2014)では、竹下景子親善大使によるWFP賞受賞作品の朗読映像や入賞作品7点、表彰式の様子等を掲載していますので、ぜひご覧ください。本コンテストでは、応募1作品につき給食約一日分(30円)が3社の寄付協力企業よりそれぞれ寄付されるため、寄付金額は1,186,200円(1社あたり395,400円)となり、およそ4万人の子どもたちに給食を届けることができます。ご参加・ご協力くださった皆様、どうもありがとうございました。

「RED CUP CAMPAIGN」レポート



国連WFPでは「皆さんの力で、給食が届く、世界がより良くなっていく。」をスローガンに、「RED CUP CAMPAIGN」を開催しています。様々な企業が商品にレッドカップのマークを入れ、その売り上げの一部を寄付する取り組みを実施しています。2014年9月以降、新たにキャンペーンに参加してくださった企業をご紹介します。現在進行中、並びに過去の事例はレッドカップキャンペーンのサイト(www.redcup.jp)をご覧ください。

日本生活協同組合連合会

「CO・OP コープヌードル」「CO・OP & 日清食品 一麺一心」「CO・OP & クノール スープ バラエティパック」「CO・OP ミニヌードルミニ」シリーズ全11アイテム(2014年9月21日から10月31日)



プリマハム株式会社

「香薰あらびきミニステーキ」(2014年10月1日から2015年3月31日)



株式会社ロッテ

「ガーナリップル」(2014年11月から2015年3月)



「学校給食プログラム」アニメーション動画を配信中!

国連WFPの給食によって広がっていく子どもたちの未来を、分かりやすくお伝えしています。ぜひご覧いただきSNSでシェアしてください！

動画はホームページもしくはYouTube
(<http://youtu.be/aPawrk9u84g>)から。

